

労働図書館新着情報

今月の図書紹介

<p>①友原章典著『移民の経済学』中央公論新社 (2020年1月刊, vi+222p, 新書判)</p> <p>海外から日本に移住し、長期的に生活する「移民」はいまや250万人にのぼる。また2018年時点の在日外国人労働者は146万人。著者は「現在の日本経済は、外国人の存在なしには語れない」と指摘する。18年12月末に政府は入国管理法を改正し、外国人労働者の受け入れを拡大した。本書は移民増により日本人の生活がどのように変化するのか、雇用や賃金、経済成長、物価、税、社会保障に至る幅広い論点で分析。例えば外国人による家事代行や育児支援などのサービスで社会進出できる女性は高学歴・高所得の人々とどまるとみる。著者は「日本では、移民の経済学的な研究があまり進んでいない」とし、本書が今後目指す社会の方向性を考えるきっかけになることを願う。</p>	<p>③権丈英子著『ちょっと気になる「働き方」の話』勁草書房 (2019年12月刊, viii+303p, A5判)</p> <p>労働経済学者で雇用政策や社会保障に詳しい著者は「生産年齢人口が大幅に減少する日本社会では今後、労働力の相対価格が高まる『労働力希少社会』を迎える」と見通す。労働力が減る一方、65歳以上人口が増える2040年までが日本の雇用社会の困難な時期で、まずはそこまでのぐのが課題だという。その間、労働市場への参加が進めば、2030年まで現在並みの6,000万人の労働力人口を維持できると予測。これまで就業率が低かった高齢者や女性の就労が一段と望まれると主張する。現在の日本は労働力活用を考えた場合、一人当たりの労働時間が長く、限られた人のみ働く「分業型」社会だと分析。今後は長時間労働を望まない人も働ける「参加型」に移行すべきだと説く。</p>
<p>②北野唯我著『OPENNESS 職場の「空気」が結果を決める』ダイヤモンド社 (2019年11月刊, 255p, 四六判)</p> <p>経営問題の専門家として職歴を積んだ著者が、企業の業績に大きな影響を与えるのが「オープネス（風通しの良さ）」であることを紹介した1冊。オープネスとは「情報の透明性」であり、「戦略のクリアさ」であり、「リーダーの自己開示性」である。風通しが悪く、人事評価が適正でない会社であるにもかかわらず、「社員の士気が高い」という組織はわずかしかないと解説。職場の風通しを阻害する要因には①上司などにみられる言行不一致②一方的なコミュニケーションによる「戦略のねじれ」③過度な成功事例の共有——の3つを指摘する。こうした問題に対し、経営者やリーダーは経営開放性や情報開放性を高める具体的施策を積極的に進める必要があるとの見方を示している。</p>	<p>④サンドラ・シャル著『「女工哀史」を再考する』京都大学学術出版会 (2020年2月刊, ix+495p, A5判)</p> <p>「女工哀史」は作家の細井和喜蔵が大正時代に執筆したノンフィクション。紡績工場での女工の過酷な労働条件と生活状況を生々しく描き、まるで「奴隷」のように扱われていた女工の虐待を告発する内容に当時の日本社会は大きな衝撃を受けた。本書が執筆されたのは、「女工哀史」を軸に近代日本の労働問題とジェンダーとの関わりに関心をもった著者が、戦前日本の製糸工場の労働争議では国内最大級だった1927年の大製糸会社の労働争議を研究したのがきっかけ。女工の「糸ひき歌」の数々、当事者への聞き取り調査などからみえる女工たちの主体的な「声」によって彼女たちが抑圧に抵抗していたのがうかがえるとともに、彼女らの肯定的な労働観が明かされる。</p>

(日本十進分類[NDC]順に掲載)

主な受け入れ図書

(2020年2月-3月労働図書館受け入れ)

- ⑤島田潤一郎著「古くてあたらしい仕事」新潮社(218頁, 新書判)
- ⑥ユヴァル・ノア・ハラリ著「21 lessons」河出書房新社(466頁, A5判)
- ⑦松久玲子編著「国境を越えるラテンアメリカの女性たち」見洋書房(iv+253頁, A5判)
- ⑧山下真一ほか著「社会保障法の法源」信山社(vi+197頁, A5判)
- ⑨稲垣久和著「働くこと」の哲学」明石書店(iv+372頁, 四六判)
- ⑩日本弁護士連合会貧困問題対策本部編「最低賃金:生活保障の基盤」岩波書店(69頁, A5判)
- ⑪桐畑昂著「退職代行マニュアル」扶桑社(135頁, 四六判)
- ⑫姜美香著「外国人介護労働者の受入れと課題」見洋書房(196頁, A5判)
- ⑬小野公一編「人を活かす心理学」北大路書房(ix+222頁, A5判)
- ⑭芳賀繁著「よりよい仕事のための心理学」北大路書房(xiii+258頁, A5判)

労働図書館 <https://www.jil.go.jp/lib/index.html>

当図書館は、社会科学関係書を中心に和書125,842冊、洋書32,810冊、和洋の製本雑誌27,114冊を所蔵している日本有数の労働関係の専門図書館です。

労働関係の分野には、労働法、労働経済、労働運動、雇用職業、女性労働、パート派遣、高齢者労働、障害者労働、外国人労働、社会福祉などがあり、これらで、蔵書の半数以上を占めています。このほかにも、経済書をはじめ経営学、心理学、教育学、社会学など関係分野に及んでいます。また、和雑誌(244種)、洋雑誌(139種)、紀要(502種)、組合機関誌・紙を受け入れています。

特色としては、厚生労働省をはじめとする官公庁発行の統計類などの逐次刊行物、経団連など経営者団体の刊行物や民間研究機関刊行物、社史があり、労働組合に関しては、労働運動史、ナショナルセンターや産業別組合の大会資料などを継続的に収集しています。洋書については、特に国際労働機関(ILO)総会の議事録や経済協力開発機構(OECD)の刊行物、各国政府の労働統計書などを収集して閲覧に供しています。特殊コレクションとしては、戦前・戦後を通して歴史的に貴重な労働組合の原資料を収集、提供しています。

所在地: 〒177-8502 東京都練馬区上石神井 4-8-23
 開館時間: 9:30 ~ 17:00
 休館日: 土曜日、日曜日、国民の祝日、年末年始(12月28日~1月4日)、その他
 電話番号: 03(5991)5032 / FAX: 03(5991)5659
 利用資格: どなたでもご自由にご利用できます

貸出: 和書・洋書とも2週間、5冊までです
 ※身分証明書(運転免許証、健康保険証など)をお持ちください
 レファレンス・サービス: 図書資料の所在調査などのサービスを行っています



※現在、新型コロナウイルス流行の影響で臨時閉館している場合があります。開館情報はHPでご確認下さい。